

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・8月号・付録
2024年8月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会

TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <https://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・川喜田尚

第61回ギヤラクシー賞 贈賞式盛会裏に終了

—6月、5月理事会報告—

◆6月理事会報告

2024年6月27日、6月理事会をZoomミーティングにて開催した。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 茅原委員長

・6月18日にZoomで委員会を開催した。

・「GALAC」9月号特集は「放送のコンプライアンス」。東名阪匿名アンケート調査や、番組ケースタディとして「不適切にもほどがある!」(TBS)や「有吉弘行の脱法TV」(フジテレビ)の制作者インタビュー、「放送用語」や「BPOとコンプライアンス」についての寄稿などから放送とコンプライアンスの現状を捉える。さらに、「セクシー田中さん」問題について、水島宏明さんに検証

を依頼した。表紙は江口のりこさん、ザ・パーソンはオードリー。

・10月号特集は「放送アーカイブの現在地」(仮題)を予定。日本の放送アーカイブの現状や世界との比較、アーカイブのビジネス利用などの構成を検討中。

・連載「GALAC NEWS」のリニューアルについて、取り上げる話題の均整を取るため、執筆を水島宏明さんと長井展光副委員長との2人体制で行うこととした。

・元NHK・佐々木昭一郎さんの訃報を受け、10月号に追悼を掲載予定。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉 松山委員長

・三谷実可さんが新たにテレビ委員に加わることを理事会で承認した。

・6月3日にZoomで月評会を開催した。5月度月間賞には、「日本怪奇ルポルターージュ」(テレビ東京)、テレメンタリー2024「行き場のない障害者」入所施設 定員削減の陰で〜(朝日放送テレビ)、夜ドラ「VRおじさんの初恋」(NHK)、土曜ドラマ「パーセント」(NHK)の4本を選出した。

〈ラジオ部門〉 桜井委員長

・6月21日にZoomで定例会を開催した。「4月スタートFMとAM平日の生ワイド新番組」をテーマに、同日、ほぼ同時時間の生放送の「PEOPLES ROASTERY」(J-WAVE)、「まるつと日常ワイド えんまん。」(中国放送)を聴取し議論を交わした。

〈CM部門〉 家田委員長

・5月23日にハイブリッド形式で定例会を開催し、37作品のCMを視聴した。ホンダVEZEL「ドライブしようよ篇」、サントリアイ右衛門「もつとも旨みが濃いと感じるお茶はどれ?」、エスタームシューダ「だいたいな服には春篇」などの作品が注目を浴びた。

〈報道活動部門〉 古川委員長

・6月19日にZoomで2024年度委員顔合わせミーティングを行い、自己紹介や委員の活動について共有した。地方在住の委員が多いため、情報交換会などはリモートで行い、選考会は東京でリアル開催することとした。

◇企画事業委員会 長井委員長

・7月に委員会を開催し、次回セミナーのテーマについて検討予定。

◇広報委員会 滝野委員長

・6月11日にZoomで委員会を開催し、主にギャラクシー賞贈賞式振り返りを行った。今年には取材者が多く、ムービーが台に乗りきらなかったりスチールカメラマンが通路に出してしまうことがあったなどの反省があり、来年に向けて取材受け入れ体制を改善したい。

・5月31日、「第61回ギャラクシー賞贈賞式」YouTubeライブ配信実施。視聴回数・7662回、同時視聴者数・1099（DJパーソナリティ賞）、平均662となった。

・6月7日、YouTubeで贈賞式アーカイブ配信をスタート。26日には「受賞者の声」インタビュー動画を公開した。

・6月7日、HPの広告バナーに「動画配信最前線」を追加。

・「60周年記念サイト」の運営を終了し、サイトへのリンクなども外した。

・Gメンバー・1015名（6/11現在）
・マイベストTV賞4月度月間ノミネートは、連続テレビ小説「虎に翼」（NHK）、大河ドラマ「光る君へ」（NHK）、「アンメット ある脳外科医の日記」（関西テレビ）に決定した。

2. その他

①正会員入会

森山莉那さん、松浦望さん

今後の理事会

7月25日、8月休会、9月26日

【出席】音好宏、川喜田尚、出田幸彦、桜井聖子、茅原良平、松山珠美、家田利一、古川柳子、長井展光、滝野俊一、入江たのし、岩根彰子、風間恵美子、五井千鶴子、小林毅、仲宇佐ゆり、丹羽美之、水島宏明、山田健太、渡邊悟、中島好登

会議記録

〔6月〕……………

3日	(選奨) テレビ月評会
11日	広報委員会
18日	出版編集委員会
19日	(選奨) 報道活動委員会
21日	(選奨) ラジオ定例部会
27日	理事会
28日	(選奨) CM定例部会

◆5月理事会報告

2024年5月22日、5月理事会をZoomミーティングにて開催した。

1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 茅原委員長

・5月14日にZoomで委員会を開催した。
・「GALAC」8月号特集は「統報！第61回ギャラクシー賞」。例年通り、贈賞式リポートと下期選考経過を掲載する。表紙は玉置怜央さん、ザ・パーソンはWOWW代表取締役社長・山本均さん。

・9月号特集は「放送のコンプライアンス」。ドラマ「不適切にもほどがある！」の反響に注目し、いま放送はコンプライアンスにどのように向き合っているのか、多面的な視点から捉え直し、制作現場の

実情を浮き彫りにする。

・連載「ダラクシー賞」を7月号で終了し、9月号からリニューアルスタートの予定。「GALACNEWS」は、砂川浩慶さんの執筆を8月号までとし、9月号から水島宏明さんに交代予定。

・脚本家・小山内美江子さんの訃報を受け、8月号に追悼を掲載予定。執筆者は元TBSのドラマプロデューサー・市川哲夫さん。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉加藤副委員長

・5月1日にZoomで月評会を開催した。4月度月間賞には、「東京ゲソ天ブルース 素晴らしき立ち食いそばの世界」(フジテレビ)、NHKスペシャル「Last Days 坂本龍一 最期の日々」(NHK)、BSスペシャル「裁判所が少年事件記録を捨てた それは何を奪ったのか」(NHK)、プレミアアムドラマ「舟を編む〜私、辞書つくります〜」(NHK)の4本を選出した。

〈ラジオ部門〉桜井委員長

・4月25日にZoomで定例会を開催した。「旅」をテーマに「鉄旅・音旅 出発進行!音で楽しむ鉄道旅」(NHK第1)、TUDOR TRAVELLING WITH THOUGHT MOVING」(J-WAV

E)、「ひろし・あさおのタビラジ!」(朝日放送ラジオ)を聴取し議論を交わした。
・5月13日にZoomで定例会を開催した。「オヤジ番組」をテーマに、「おやじの青春」(四国放送)、「佐藤二朗とおやじの時間」(NHK第1)、「伊東四朗・吉田照美 親父・熱愛」(文化放送)を聴取し議論を交わした。

〈CM部門〉家田委員長

・4月25日にリアルで定例会を開催し、38作品のCMを視聴した。宇多田ヒカルと綾鷹、伊藤忠商事のタイアップCMや、サントリー「ショートコント 新社会人」や花王メリット「はじめて自転車に乗れた日篇」などのCMが注目を浴びた。

〈報道活動部門〉古川委員長

・6月に新体制のキックオフミーティングを開催予定。

◇企画事業委員会 長井委員長

・北尾昌大さんが新たに企画委員に加わることを理事会で承認した。

◇広報委員会 滝野委員長

・5月17日にZoomで委員会を開催し、主にギャラクシー賞贈賞式の担務・作業内容を確認した。

・4月24日、HP「オリジナルコンテンツ」に「座談会」2024年春ドラマを語る!」を掲載。

・5月2日、SNSのアイコンを60周年仕様から通常の仕様に変更。

・5月14日、YouTubeに再生リスト「第61回ギャラクシー賞(入賞)〈奨励賞〉ドキュメンタリー作品YouTubeリンク」を掲載。

・Gメンバー1047名(5/17現在)。
・5月8日、Gメンバーの有効期限更新制度を変更(1000ポイント利用で次年度会費無料↓半額)。

・第18回マイベストTV賞グランプリは金曜ドラマ「不適切にもほどがある!」(TBS)に決定し、5月15日に発表した。

・マイベストTV賞3月度月間ノミネートは、プレミアアムドラマ「舟を編む〜私、辞書つくります〜」(NHK)、NHKスペシャル 未解決事件 FILE・10「下山事件」(NHK)、「春になったら」(関西テレビ)に決定した。

・特別投票「ネット配信ドラマ」ノミネートは、「おっさんずラブリターンズ」『禁断のグータンヌーボ』(TELASA)、「潜入捜査官 松下洸平」(TVer)、「離婚しようよ」(Netflix)に決定した。

2. 第61回ギャラクシー賞贈賞式の件

・中島事務局長より、開演までのタイムスケジュール、会場、主な登壇者について

て情報を共有した。

・出席予定人数は昨年同時期より30〜40人減に留まっている。

3. その他

①正会員入会・退会

〈入会〉栗原紗代さん

〈退会〉麻生千晶さん、池本孝慈さん、島崎英雄さん、田中惣二さん

【出席】音好宏、川喜田尚、出田幸彦、桜井聖子、茅原良平、家田利一、古川柳子、長井展光、滝野俊一、市村元、岩根彰子、風間恵美子、加藤久仁、国枝智樹、五井千鶴子、小林毅、仲宇佐ゆり、丹羽美之、水島宏明、山田健太、渡邊悟、中島好登

会議記録

〔5月〕

1日 (選奨) テレビ月評会
13日 (選奨) ラジオ定例部会
17日 出版編集委員会
17日 広報委員会
22日 理事会
23日 (選奨) CM定例部会

放送の世界を新聞界からみる

阿部日向子

はじめまして。日本新聞協会の阿部と申します。新聞・通信・放送各社で構成する業界団体で、機関紙『新聞協会報』の記者しております。新卒で入社し4年目の若輩者ですが、どうぞよろしく願います。

出身大学の教授でもある音好宏理事長にお声掛けいただき、今年度の「GALAC」編集委員としても活動させていただけます。

職場では、新聞協会が国などに向けて出す意見・声明、加盟各社の報道事例や新規事業などを取材しています。普段仕事で関わるのは新聞社の方がほとんどなので、ここで放送に関する知識を少しでも多く吸収したいです。

新聞やテレビなどの媒体を通じることなく、スマートフォン一つでSNSや配信サービスを見て過ごすことが当たり前前の世代に生まれたからこそ、業界でご活躍されている皆様の知識や知見を借りて、今後のメディアの在り方や役割についての考えを深めたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほどよろしく願います。

新入正会員自己紹介

進化し続けるケーブルテレビと共に

一瀬悦子

私が社会人としてスタートを切ったのは、当時、東京・丸の内に本社を構えていた水産会社でした。宣伝・販売部門に席を置いていましたが、入社9年目を目前にいわゆるバーンアウト症候群に陥り、退職。

その後、知り合いの紹介で出版という未知の仕事に就くことになりました。そこは情報通信系の業界誌を発行している出版社でした。当時は「ニューメディア」という言葉が飛び交う時代でしたが、私のなかに刺さるコンテンツは何一つありませんでした。不向きな業界かもしれないと思っていった時に、巡り合ったのが「ケーブルテレビ」でした。地域に寄り添い、地域のために、地域と共に……こんな人間臭い事業があるんだと、ようやく自分が寄って立つ場を見つけた気がしました。それから約40年近くケーブルテレビ業界の今を、誌面を通して発信し続けています。今なお進化と変化を続けるケーブルテレビの現状を、皆様にお伝えするとともに共有できましたら幸いです。

あらためて、CMが好きです。

佐藤義浩

小学生の頃は「あなたは人がいちばん言われたくないことを言う」と怒られる、かなり「不適切」な子どもでした。悪気はなく相手の弱点が光って見えてツッコまずにはいられない。それって今考えると無意識に相手の特徴を言語化したのかも。モヤツとした何かを一言で表現する。要素をまとめるんじゃなく余計なものを捨て強い何かだけを残す。CM作りはそういう仕事だったりします。短い時間のなかで何を伝えるか。それが面白く30年以上続けてきました。

この会に参加する機会をいただき、久しぶりにCMをいっぱい見ました。最近のCMは……なんて正直思っていたのですが、これが面白かった。ちゃんと作っているものは今もいっぱいある。やっぱりCMが好きなんだなど、あらためて思いました。

変化に立ち向かうのは大変です。そんななかでもちゃんと時代にツッコミを入れていくCMはたくさんある。それを見つけてちゃんと評価していきたい。そんなふうに思っています。

新入正会員自己紹介

現場の熱を感じながら

篠原朋子

放送局で職を得て、辞書の編集！からスタートし、番組制作、購入、展開、編成といろいろな経験をする事ができました。なかでも、CSチャンネルの立ち上げは、制作・編成はもちろん、営業・事業運営まで目からウロコの時代でした。そこで、海外のさまざまな番組を見るチャンスをいただき、どの国でも普遍的に感じられるテーマがあることを実感しました。

すべての職場で共通していたのは、チームの「熱」が放送に現れることを体感できたこと、そして形のないところから番組が生まれ、それを世間様がおもしろがってくれたときの醍醐味を感じられたことでしょうか。

ご縁をいただき、あの（！）ギャラクシー賞の世界に飛び込みました。時代から新しいエネルギーをもらいながら、伝えたい、笑ってほしい、考えてほしいと奮闘している現場の「熱」をピンピンに感じながら、このおもしろい世界にエールを送ることができたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入正会員自己紹介

37年間の制作現場を経て、大学へ

田淵俊彦

昨年2023年3月までテレビ東京に37年間在職し、4月から桜美林大学芸術文化学群ビジュアル・アーツ専修で映像教育をおこなっています。

テレビ局時代は制作現場一筋。ドキュメンタリー歴は25年以上で主に海外をフィールドとし、訪れた国は100カ国を超えます。お気に入りの場所はヒマラヤ山脈周辺のチベット文化圏でした。

連合赤軍や高齢初犯、ストーカー加害者、発達障害と少年事件との関係など、社会問題にこれまでと違った視点で迫ることも挑みました。ドラマも数多くプロデュースし、良い作品とスタッフに恵まれたと思います。

「制作」から「教育」へと携わる現場は変わりましたが、この懇談会で多くの作品やクリエイターに関われたら嬉しいと思っただけでした。

いまテレビメディアは戦国時代であり、構造的な問題も山積みですが、映像の「限界」を見極めることでその先にある映像の「可能性」を見据えたいと考えています。

テレビの文化・教育的価値の探究

長谷川達哉

テレビのセールズ指標が世帯視聴率から個人視聴率へと順次移行したことにより、各放送局は49歳以下の男女をメインターゲットにしたコンテンツにメタモルフォーゼしている最中だ。この流れが適切かどうかはわからない。

一方、ネット動画コンテンツはコロナ禍を経てクオリティが格段に向上した。文化人や見識者は自ら情報を発信するようになり、多様な意見がネット上で飛び交うようになった。若年層においてはビジュアルコミュニケーションが新たな文化を形成している。玉石混濁のコンテンツのなかでプロとアマチュアの境界線は消えつつある。多様性を受け入れ尊重することは大切であるが、さらに大きな衝突と亀裂も生まれている。

テレビは文化であり教育の役割も担う。優れた作品は高揚感をもたらし、社会を変える力を持つ。

正会員にお声がけいただき恐縮している。この機会にさまざまな作品に触れ、微力ながら優れた作品の魅力を伝えられるよう努めていきたい。

新入正会員自己紹介

32年目の答え探し

藤掛真里

はじめまして、藤掛真里と申します。プロデューサーという肩書ですが、11歳児の母親でもあります。1993年プロダクション入社です。PCもなく書類も香盤も手書き、検索は本屋か電話、現地まで足を運ぶ、個人携帯はまだ、今じゃ考えられないアナログ時代からCM制作に携わってきました。

徹夜や土日も作業が当たり前、それでも目を輝かせてプロたちの仕事を間近に見ては、CMってすごい！最先端！と思っていたあの頃。あれから30年、世の中の常識が一変し、映像業界はアナログからデジタルへ。あらゆるメディアと技術が台頭し、撮影も編集も誰もが発信できるこの時代。生成AIの出現でさらに飛躍し続ける業界において、「プロの仕事って?」「CMの面白さとは?」etc……。

答えが出たこともあるかもしれない。でも正解はわからない。そんななかこのような機会をいただきました。文章も発言もおぼつかない私ですが、この仕事32年目の答え探しをさせていただきます。ければと思います。



フェイスブック
「放送批評懇談会」



X (旧: Twitter)
「@houkon_jp」



インスタグラム
「houkon.jp」



YouTube
「放送批評懇談会
公式チャンネル」



～放懇SNS発信中～

フォロー、チャンネル登録、
拡散、「いいね」
お願いします!



[news every.] (日テレ、5月31日)

第61回 ギャラクシー賞は こう伝えられた!



[めざましテレビ] (フジ、6月3日)



[めざましどようび] (フジ、6月1日)



[THE TIME.] (TBS、6月3日)



[DayDay.] (日テレ、6月3日)



放懸 YouTube チャンネルにて贈賞式アーカイブ配信中!



受賞者インタビューもご覧ください!



YouTube はこちら

